

平成30年度 財政状況資料集

総括表 (市町村)

都道府県名	神奈川県		市町村類型	政令指定都市	指定団体等の指定状況		区分	平成30年度(千円)	平成29年度(千円)	区分	平成30年度(千円・%)	平成29年度(千円・%)					
	相模原市				地方交付税種地	1-7							財政健全化等	×			
市町村名	相模原市		地方交付税種地	1-7	財源超過	×	歳入総額	297,261,601	292,558,612	実質収支比率	4.8	4.7					
	相模原市				首都		歳出総額	288,040,103	283,547,810	経常収支比率	98.1	98.4					
人口	27年国調(人)	720,779	産業構造 (5)	中部	×	歳入歳出差引	9,221,498	9,010,802	(1)	(109.2)	(110.0)						
	22年国調(人)	717,515		過疎	×	翌年度に繰越すべき財源	1,057,719	1,171,636	標準財政規模	170,358,582	168,376,452						
	増減率 (%)	0.5		山振		実質収支	8,163,779	7,839,166	財政力指数	0.90	0.92						
住民基本台帳人口 (7)	31.01.01(人)	718,367	区分	27年国調	22年国調	低開発	×	単年度収支	324,613	1,506,853	公債費負担比率	12.9	13.0				
	うち日本人(人)	703,572				第1次	1,995	1,892	指数表選定		積立金	4,155	4,935	健全化判断比率			
	30.01.01(人)	718,192					0.7	0.6	積立金取崩し額	3,000,000	4,700,000	実質赤字比率	-	-			
	うち日本人(人)	704,643				第2次	74,224	79,375	実質単年度収支	-2,671,232	-3,188,212	連結実質赤字比率	-	-			
	増減率 (%)	0.0					24.4	25.4	標準財政収入額	112,198,305	110,222,260	資金不足比率 (4)					
うち日本人 (%)	-0.2	第3次	227,592	230,798	標準財政需要額	125,362,291	123,060,005	標準税収入額等	139,876,362	137,490,359	将来負担比率	33.3	39.0				
面積 (km ²)	328.91		74.9	74.0	経常経費充当一般財源等	170,698,052	169,644,979	歳入一般財源等	194,224,898	192,078,117							
人口密度 (人/km ²)	2,191					地方債現在高	269,916,692	264,169,044	うち公的資金	85,090,949	92,619,751						
世帯数 (世帯)	311,188					債務負担行為額 (支出予定額)	58,550,734	50,467,933	収益事業収入	1,050,287	1,038,985						
職員状況																	
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等 (6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	土地開発基金現在高	2,000,000	2,000,000	積立金現在高	7,341,893	6,237,738			
	市区町村長	1	11,420		一般職員	4,544	13,968,256	3,074	財政調整基金	7,341,893	6,237,738	減債基金	334,095	292,973			
	副市区町村長	3	9,350		うち消防職員	742	2,356,592	3,176	その他特定目的基金	7,393,403	6,240,960						
	教育長	1	8,040		うち技能労務職員	350	1,102,150	3,149									
	議会議長	1	7,790		教育公務員	2,839	9,689,358	3,413									
	議会副議長	1	7,130		臨時職員	-	-	-									
	議会議員	44	6,700		合計	7,383	23,657,614	3,204									
						ラสบayレス指数				99.3							
一般会計等の一覧																	
項番	会計名	事業会計の一覧	項番	会計名	公営企業(法適)の一覧	項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧	項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧	項番	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧	項番	団体名	(3)
(1)	一般会計	(6)	国民健康保険事業特別会計(事業勘定)	(11)	下水道事業会計	(12)	簡易水道事業特別会計					(13)	相模原市土地開発公社				
(2)	母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計	(7)	国民健康保険事業特別会計(直営診療勘定)									(14)	相模原市まち・みどり公社				
(3)	公債管理特別会計	(8)	自動車駐車場事業特別会計									(15)	相模原市社会福祉協議会				
(4)	公共用地先行取得事業特別会計	(9)	介護保険事業特別会計									(16)	相模原市民文化財団				
(5)	麻溝台・新磯野第一整備地区土地区画整理事業特別会計	(10)	後期高齢者医療事業特別会計									(17)	相模原市体育協会				
												(18)	相模原市勤労者福祉サービスセンター				
												(19)	相模原市産業振興財団				
												(20)	相模原市シルバー人材センター				
												(21)	相模原市防災協会				
												(22)	さがみはら産業創造センター				

(注釈) 1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に印を付与している。
 4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「一人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位 千円・%)					地方税の状況(単位 千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	127,892,461	43.0	118,802,545	76.0	普通税	115,680,537	90.5	286,788	
地方譲与税	1,724,807	0.6	1,724,807	1.1	法定普通税	115,680,537	90.5	286,788	
利子割交付金	126,999	0.0	126,999	0.1	市町村民税	65,250,936	51.0	286,788	
配当割交付金	533,057	0.2	533,057	0.3	個人均等割	1,274,847	1.0	-	
株式等譲渡所得割交付金	468,185	0.2	468,185	0.3	所得割	57,305,602	44.8	-	
分離課税所得割交付金	489,678	0.2	489,678	0.3	法人均等割	1,760,538	1.4	-	
道府県民税所得割臨時交付金	1,618,678	0.5	1,618,678	1.0	法人税割	4,909,949	3.8	286,788	
地方消費税交付金	12,238,490	4.1	12,238,490	7.8	固定資産税	45,179,833	35.3	-	
ゴルフ場利用税交付金	162,894	0.1	162,894	0.1	うち純固定資産税	44,161,800	34.5	-	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	977,306	0.8	-	
自動車取得税交付金	1,017,221	0.3	1,017,221	0.7	市町村たばこ税	4,272,462	3.3	-	
軽油引取税交付金	3,234,095	1.1	3,234,095	2.1	鉱産税	-	-	-	
地方特例交付金	886,146	0.3	886,146	0.6	特別土地保有税	-	-	-	
地方交付税	13,757,149	4.6	12,768,412	8.2	法定外普通税	-	-	-	
普通交付税	12,768,412	4.3	12,768,412	8.2	目的税	12,211,924	9.5	-	
特別交付税	988,474	0.3	-	-	法定目的税	12,211,924	9.5	-	
震災復興特別交付税	263	0.0	-	-	入湯税	-	-	-	
(一般財源計)	164,149,860	55.2	154,071,207	98.5	事業所税	3,122,008	2.4	-	
交通安全対策特別交付金	205,103	0.1	205,103	0.1	都市計画税	9,089,916	7.1	-	
分担金・負担金	2,176,444	0.7	-	-	水利地益税等	-	-	-	
使用料	3,590,571	1.2	703,164	0.4	法定外目的税	-	-	-	
手数料	1,899,890	0.6	-	-	旧法による税	-	-	-	
国庫支出金	54,545,428	18.3	-	-	合計	127,892,461	100.0	286,788	
国有提供交付金(特別区財調交付金)	1,302,460	0.4	1,302,460	0.8					
都道府県支出金	15,301,377	5.1	-	-					
財産収入	868,174	0.3	66,407	0.0					
寄附金	60,223	0.0	-	-					
繰入金	4,048,572	1.4	-	-					
繰越金	4,910,802	1.7	-	-					
諸収入	15,011,997	5.1	174	0.0					
地方債	29,190,700	9.8	-	-					
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	17,705,600	6.0	-	-					
歳入合計	297,261,601	100.0	156,348,515	100.0					

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳出の状況(単位 千円・%)					
目的別歳出の状況(単位 千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	947,749	0.3	-	947,546	
総務費	22,979,490	8.0	317,891	20,772,396	
民生費	117,039,937	40.6	977,678	57,925,408	
衛生費	22,921,648	8.0	1,689,702	17,349,769	
労働費	659,091	0.2	-	218,510	
農林水産業費	699,863	0.2	64,469	583,934	
商工費	12,363,792	4.3	541,186	2,444,979	
土木費	26,579,155	9.2	11,750,152	15,889,604	
消防費	7,532,223	2.6	608,255	6,980,915	
教育費	50,335,475	17.5	6,820,414	36,537,603	
災害復旧費	470,553	0.2	-	185,008	
公債費	25,511,127	8.9	-	25,167,728	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	288,040,103	100.0	22,769,747	185,003,400	

性質別歳出の状況(単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	176,993,484	61.4	114,938,948	114,918,741	66.0
人件費	68,970,420	23.9	59,934,323	59,914,116	34.4
うち職員給	50,323,820	17.5	41,823,667	-	-
扶助費	82,557,512	28.7	29,882,472	29,882,472	17.2
公債費	25,465,552	8.8	25,122,153	25,122,153	14.4
元利償還金	25,465,552	8.8	25,122,153	25,122,153	14.4
内 訳					
うち元金	23,443,052	8.1	23,143,725	23,143,725	13.3
うち利子	2,022,500	0.7	1,978,428	1,978,428	1.1
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	87,806,319	30.5	65,061,543	55,779,311	32.0
物件費	35,946,963	12.5	29,009,052	28,305,890	16.3
維持補修費	3,895,689	1.4	3,219,497	3,219,497	1.8
補助費等	14,357,800	5.0	12,807,268	10,929,908	6.3
うち一部事務組合負担金	25,957	0.0	25,957	25,957	0.0
繰出金	21,076,641	7.3	17,831,834	13,222,442	7.6
積立金	2,198,949	0.8	2,092,318	-	-
投資・出資金・貸付金	10,330,277	3.6	101,574	101,574	0.1
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	23,240,300	8.1	5,002,909	-	-
うち人件費	616,187	0.2	602,545	-	-
普通建設事業費	22,769,747	7.9	4,817,901	-	-
うち補助	9,087,954	3.2	676,034	-	-
うち単独	12,753,851	4.4	3,431,225	-	-
災害復旧事業費	470,553	0.2	185,008	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	288,040,103	100.0	185,003,400	-	-

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率(市町村)

平成30年度 神奈川県相模原市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	295,060	286,243	8,817	8,376		275,808	
2 母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計	407	161	246	0		1,107	
3 公債管理特別会計	41,947	41,947	0	0		0	
4 公共用地先行取得事業特別会計	373	373	77	-		5,150	
5 麻溝台・新磯野第一整備地区土地区画整理事業特別会計	2,349	1,978	371	1		1,736	
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							実質赤字額
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							

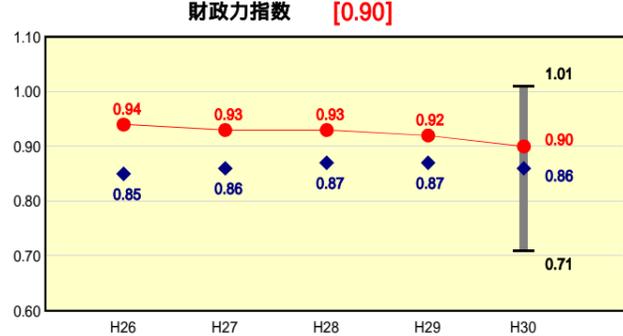
(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	718,367人(H31.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	703,572人(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	328.91km ²	実質公債費比率	2.7%
歳入総額	297,261,601千円	将来負担比率	33.3%
歳出総額	288,040,103千円	市町村類型	H26 政令市 H27 政令市 H28 政令市
実質収支	8,163,779千円	(年度毎)	H29 政令市 H30 政令市
標準財政規模	170,358,582千円		
地方債現在高	269,916,692千円		



市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づき実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。『人件費・物件費等の状況』の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

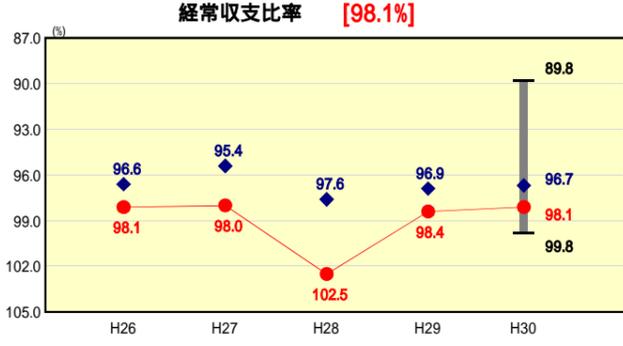
財政力



類似団体内順位 8/20 全国平均 0.51 神奈川県平均 0.92

財政力指数の分析欄
平成30年度においては、市税の増収等により基準財政収入額が増加したものの、社会福祉費等の増加による基準財政需要額の増加額が基準財政収入額の増加額を上回ったため、単年度の財政力指数は前年度と比べると0.01ポイント低下の0.89となり、3年平均では前年度と比べると0.02ポイント低下の0.90となっている。直近の5年間の推移を見ると、類似団体平均を上回っているものの、低下傾向が続いている状況にあることから、更なる市税等の収納率の向上や債権回収の強化に向けた取組等により、財政基盤の強化に努める。

財政構造の弾力性



類似団体内順位 13/20 全国平均 93.0 神奈川県平均 97.4

経常収支比率の分析欄
生活保護費や保育所等への施設型給付費の増加等により扶助費が増加したことや、学校情報教育推進事業や中学校完全給食推進事業の増加等により物件費が増加したことなどから、経常経費充当一般財源が前年度と比べると0.6%増となっている。一方、経常一般財源は、市税について、県費負担教職員の給与負担等の権限移譲に伴い個人市民税所得割が増加したことや、新規法人の市内進出や法人の設備投資の促進により、固定資産税が増加したこと等で、前年度と比べると0.6%増となっている。こうしたことにより、経常収支比率は前年度と比べると0.3ポイント低下の98.1%となったものの、依然として類似団体平均を上回っている。このため、引き続き、事務事業の見直しや、市単独事業の扶助費等の見直しなどを行うとともに、収納対策の強化による市税収入等の確保に取り組むほか、市債の発行に当たっては、元利償還金に対する地方交付税措置のある有利な起債を活用するなど、財政の硬直化改善に努める。

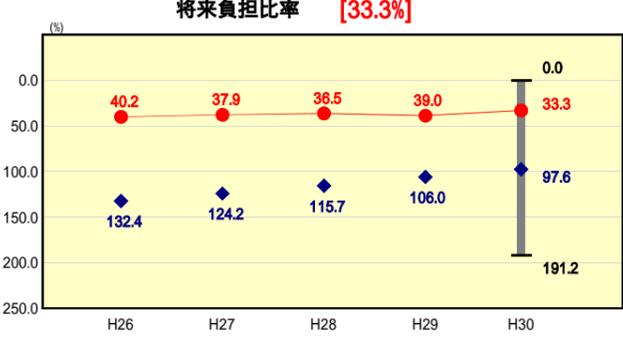
人件費・物件費等の状況



類似団体内順位 4/20 全国平均 132,793 神奈川県平均 129,606

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
人件費、物件費及び維持補修費の合計額の人口一人当たりの金額は、前年度と同様、類似団体平均を下回っている。各経費についてみると、人件費については、退職手当や時間外勤務手当等の減少により、前年度と比べると1.1%減、物件費については、行政事務情報化経費の増加等により、前年度と比べると2.8%増、維持補修費については、清掃施設や小・中学校などに係る経費等の増加により、前年度と比べると1.5%増となった。人件費と維持補修費については類似団体平均を下回っているが、物件費については類似団体平均を上回り、団体内順位も12位となっている。こうしたことから、行財政改革の取組により、引き続き、物件費をはじめ、各経費の削減に努める。

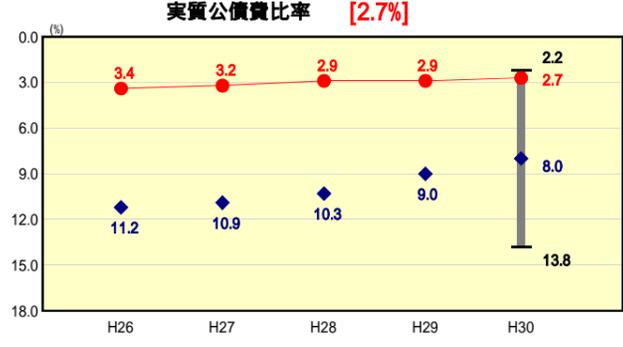
将来負担の状況



類似団体内順位 5/20 全国平均 28.9 神奈川県平均 94.1

将来負担比率の分析欄
将来負担比率については、分母である標準財政規模が市税の増収等により増加したことに加え、分子では基金残高の増加や地方債現在高のうち地方交付税措置のある事業債に係る残高の比率が増加したことにより、前年度と比べると5.7ポイントの低下となっている。将来負担比率が類似団体平均を大きく下回っている主な要因としては、第2次さがみはら都市経営指針・実行計画で定める市債の発行抑制目標等に留意し、適正な発行に努めていることがあげられるが、引き続き、市債の発行に当たっては、元利償還金に対する地方交付税措置のある有利な起債を活用するなど、将来にわたり持続可能な財政運営に努める。

公債費負担の状況



類似団体内順位 2/20 全国平均 6.1 神奈川県平均 7.3

実質公債費比率の分析欄
実質公債費比率については、分母である標準財政規模が市税の増収等により増加したことに加え、分子では元利償還金等が増加したものの、緊急防災・減災事業債など地方交付税措置のある事業債に係る元利償還金の比率が増加したことにより、前年度と比べると0.2ポイント低下となっている。実質公債費比率が類似団体平均を大きく下回っている主な要因としては、第2次さがみはら都市経営指針・実行計画で定める市債の発行抑制目標等に留意し、適正な市債発行に努めてきたことがあげられるが、引き続き、市債の発行に当たっては、元利償還金に対する地方交付税措置のある有利な起債を活用するなど、将来にわたり持続可能な財政運営に努める。

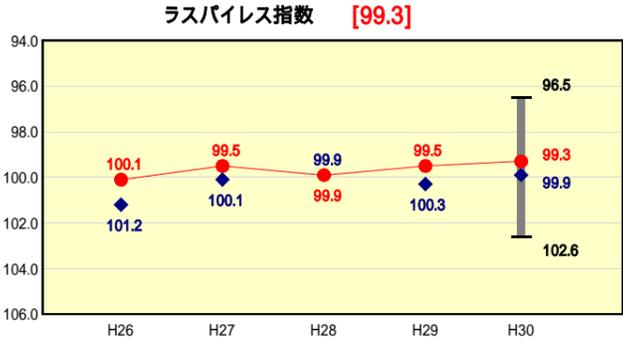
定員管理の状況



類似団体内順位 5/20 全国平均 7.95 神奈川県平均 8.77

人口1,000人当たり職員数の分析欄
平成28年度に策定した職員定数管理計画(計画期間:平成29年度~31年度)においては、29年度当初の職員定数を3年間維持することとしており、職員数も変動していないことから、前年度とほぼ同数となっている。平成26年度以降、類似団体平均を下回っているが、引き続き、事務執行体制及び事務事業の見直しや民間活力の導入を推進するとともに、必要度・重要度の高い事務事業に対しては重点的に職員を配分するなど、適切な定員管理に努める。

給与水準 (国との比較)



類似団体内順位 3/20 全国市平均 98.9 全国町村平均 96.3

ラスパイレース指数の分析欄
平成27年度に給与制度の総合の見直しを実施し、給料表の引下げ改定を行ったことにより、27年度ラスパイレース指数(28年4月1日現在)は100を下回っている。その後は、100を下回る水準で推移している。平成30年度の数値(31年4月1日現在)は、職員構成の変動により前年度と比較して0.2ポイント低下している。今後も引き続き、適正な給与水準の維持に努める。

(4) -1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成30年度

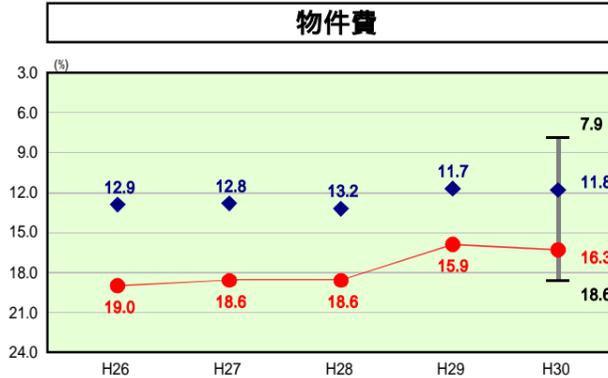
神奈川県相模原市

経常収支比率の分析

人口	718,367	人(H31.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	703,572	人(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	328.91	km ²	実質公債費比率	2.7	%
歳入総額	297,261,601	千円	将来負担比率	33.3	%
歳出総額	288,040,103	千円	市町村類型	H26 政令市 H27 政令市 H28 政令市	
実質収支	8,163,779	千円	(年度毎)	H29 政令市 H30 政令市	
標準財政規模	170,358,582	千円			
地方債現在高	269,916,692	千円			

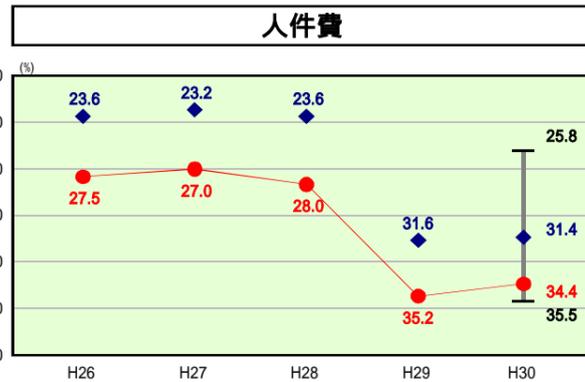


市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



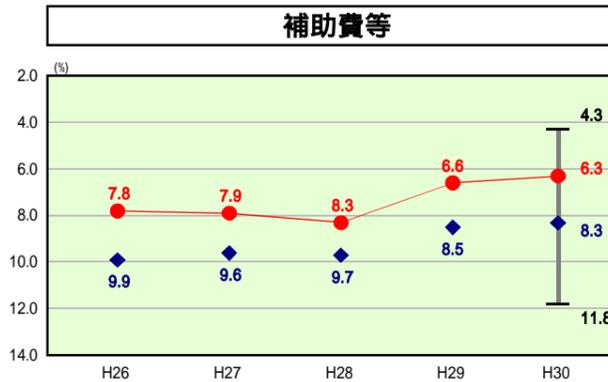
類似団体内順位 19/20 全国平均 14.7 神奈川県平均 14.8

物件費の分析欄
物件費に係る経常収支比率については、前年度と比べると0.4ポイント上昇の16.3%となっている。近年の推移をみると、平成26年度以降、継続して類似団体平均を上回っている。物件費の内訳では、委託料の占める割合が66.4%と最も高く、次いで需用費、賃金となっている。物件費が類似団体平均に比べて高いのは、本市の最低賃金が他の類似団体と比較して高い傾向にあるため、最低賃金が委託事業者や非常勤職員の賃金に反映されることによるものである。引き続き、事務事業の精査・見直しによる経費縮減に努める。



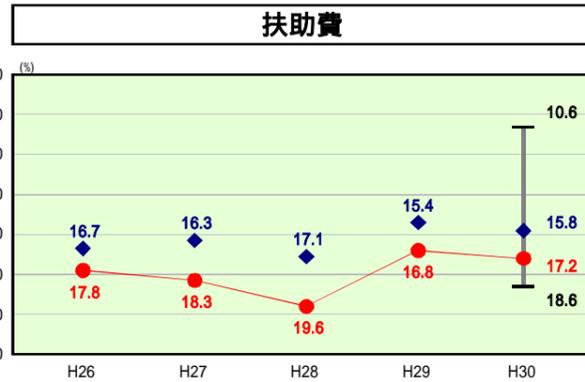
類似団体内順位 16/20 全国平均 25.6 神奈川県平均 30.6

人件費の分析欄
人件費に係る経常収支比率については、前年度と比べると0.8ポイント低下の34.4%となっている。人口一人当たりの人件費や1,000人当たり職員数、ラスパイレス指数は、類似団体平均を下回っている。給与制度の総合的見直し(平成27年度実施)や職員定数管理計画(28年度策定)において、給与水準の適正化や適切な定員管理に取り組んでおり、今後も引き続き、適正な職員規模や給与水準の維持に努める。



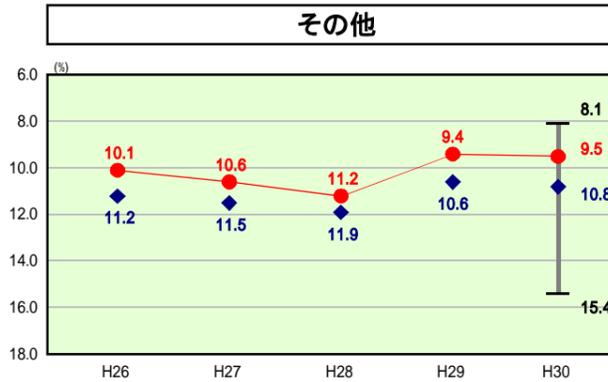
類似団体内順位 6/20 全国平均 10.2 神奈川県平均 9.9

補助費等の分析欄
補助費等に係る経常収支比率については、前年度と比べると0.3ポイント低下の6.3%となっており、近年の推移をみても、平成26年度以降、継続して類似団体平均を下回っている。これは、補助費等のうち、臨時福祉給付金給付事業の終了等により民生費が大きく減少したことが、主な要因である。引き続き、行財政改革の取組を進め、事務事業の精査・見直しによる経費縮減に努める。



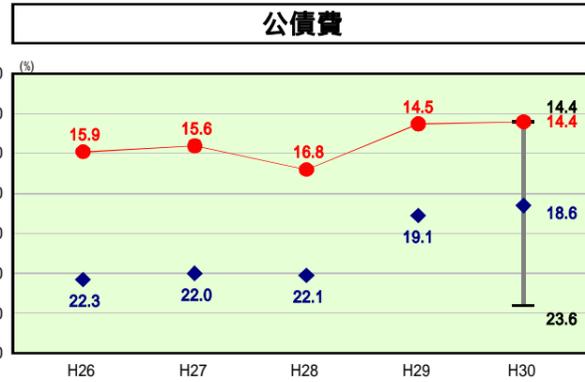
類似団体内順位 15/20 全国平均 12.6 神奈川県平均 16.5

扶助費の分析欄
扶助費に係る経常収支比率については、前年度と比べると0.4ポイント上昇の17.2%となっている。この要因としては、障害児者介護給付費や難病患者医療費給付事業に係る経費が増加したことが挙げられる。本市の扶助費充当分が類似団体平均を上回っているのは、人口一人当たりの市単独事業の扶助費が高く、その中でも特に児童福祉費と社会福祉費が、類似団体内で比べると高い水準にあることが主な要因である。平成30年度については、市単独事業の扶助費のうち、施設型給付費(教育総務費)が前年度と比べると2.5%増と大きく伸びている。こうしたことから、引き続き、市単独事業の扶助費等の見直しに努める。



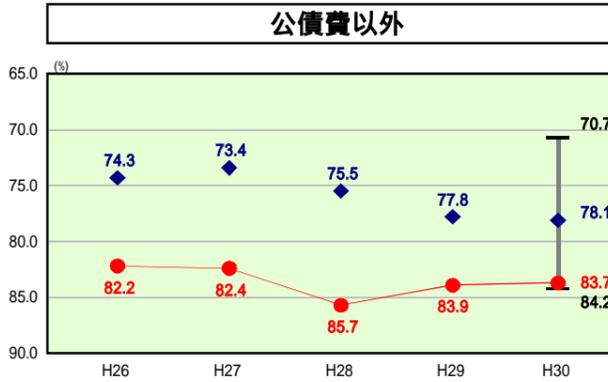
類似団体内順位 4/20 全国平均 13.3 神奈川県平均 10.4

その他の分析欄
その他に係る経常収支比率については、前年度と比べると0.1ポイント上昇の9.5%となっている。これは、国民健康保険事業特別会計において、財政健全化を進めたことにより繰出金が減少したものの、清掃施設や小・中学校に係る維持補修費が増加したことが主な要因である。引き続き、特別会計の経営健全化や公共施設の適正な管理に努める。



類似団体内順位 1/20 全国平均 16.6 神奈川県平均 15.2

公債費の分析欄
公債費に係る経常収支比率については、前年度と比べると0.1ポイント低下の14.4%となっており、類似団体内において最も低い数値となっている。近年の推移をみても、平成26年度以降、継続して類似団体平均を下回っている。これは、第2次さがみはら都市経営指針・実行計画において、市債の発行抑制目標等に留意し、適正な市債発行に努めてきたこと等が主な要因である。引き続き、市債の発行に当たっては、元利償還金に対する地方交付税措置のある有利な起債を活用するなど、適正な対応に努める。



類似団体内順位 19/20 全国平均 76.4 神奈川県平均 82.2

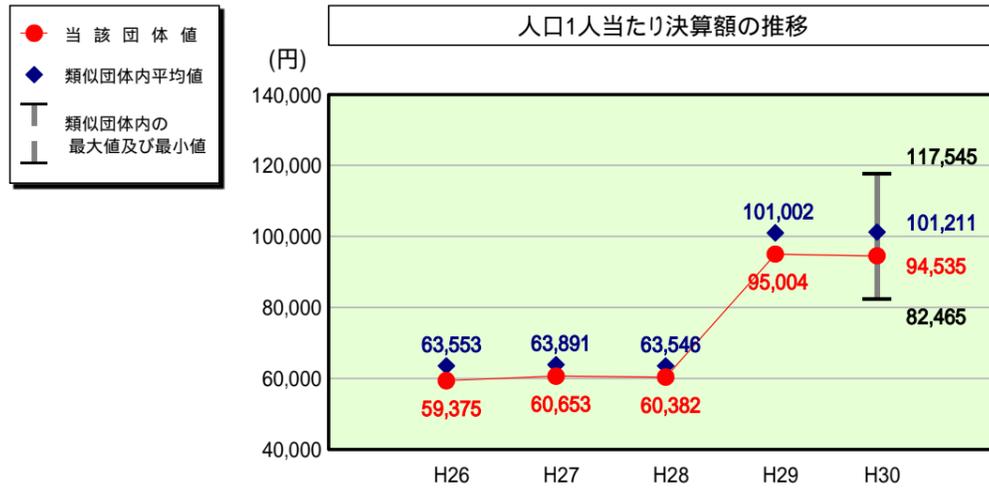
公債費以外の分析欄
公債費以外に係る経常収支比率について、主な内訳をみると、人件費充当分が34.4%、扶助費充当分が17.2%、物件費充当分が16.3%となっており、前年度と比べると0.2ポイント低下の83.7%となっている。これらの主な内訳が類似団体平均を上回っているため、全体としても高い数値となり、公債費以外についても類似団体平均を上回っている。こうしたことから、引き続き、行財政改革の取組を進め、経費縮減に努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成30年度

神奈川県相模原市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

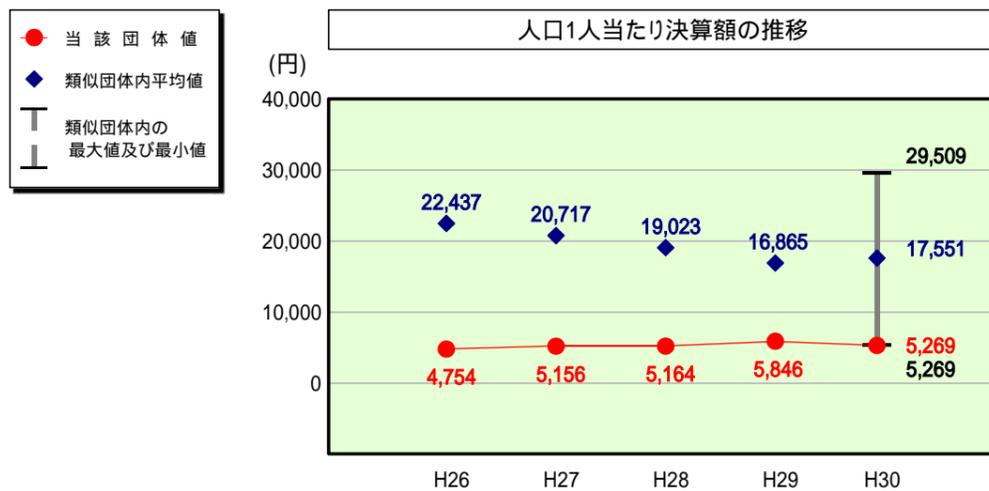
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	68,970,420	96,010	103,123	6.9
賃金(物件費)	2,797,585	3,894	1,485	162.2
一部事務組合負担金(補助費等)	118	0	130	100.0
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	151,197	210	1,206	82.6
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	5	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	576,195	802	1,897	57.7
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	616,187	858	1,181	27.3
退職金	5,200,617	7,239	7,816	7.4
合計	67,911,085	94,535	101,211	6.6

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	10.28	10.74	0.46
ラスパイレス指数	99.3	99.9	0.6

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

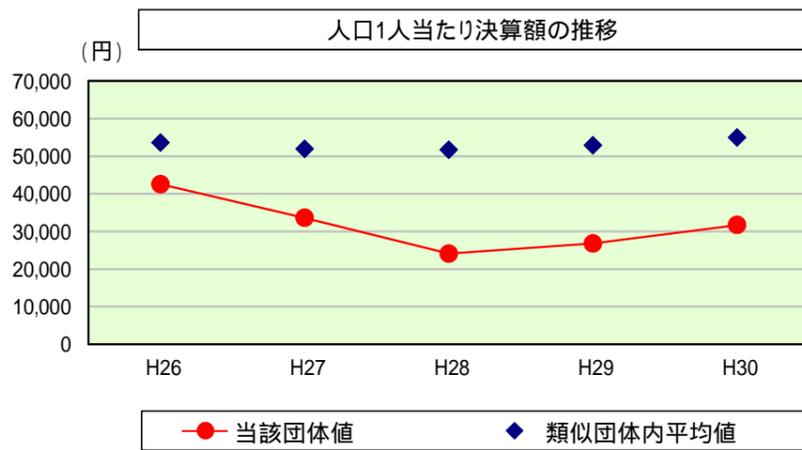


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	22,381,417	31,156	32,293	3.5
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	2,903	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	2,760,000	3,842	20,757	81.5
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	4,404,510	6,131	11,103	44.8
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	186	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	974,091	1,356	1,195	13.5
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	0	-
特定財源の額	8,688,486	12,095	17,395	30.5
地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	18,046,300	25,121	33,490	25.0
合計	3,785,232	5,269	17,551	70.0

平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H26	30,415,955	42,531	6.4	53,572	5.4	11.8
うち単独分	16,360,954	22,878	3.0	25,259	11.8	8.8
H27	24,087,552	33,612	21.0	51,898	3.1	17.9
うち単独分	12,363,793	17,252	24.6	25,986	2.9	27.5
H28	17,291,812	24,118	28.2	51,684	0.4	27.8
うち単独分	9,372,112	13,072	24.2	26,671	2.6	26.8
H29	19,268,274	26,829	11.2	52,897	2.3	8.9
うち単独分	10,690,321	14,885	13.9	27,013	1.3	12.6
H30	22,769,747	31,697	18.1	54,945	3.9	14.2
うち単独分	12,753,851	17,754	19.3	29,293	8.4	10.9
過去5年間平均	22,766,668	31,757	5.3	52,999	1.6	6.9
うち単独分	12,308,206	17,168	2.5	26,844	5.4	7.9

(5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

平成30年度

神奈川県相模原市

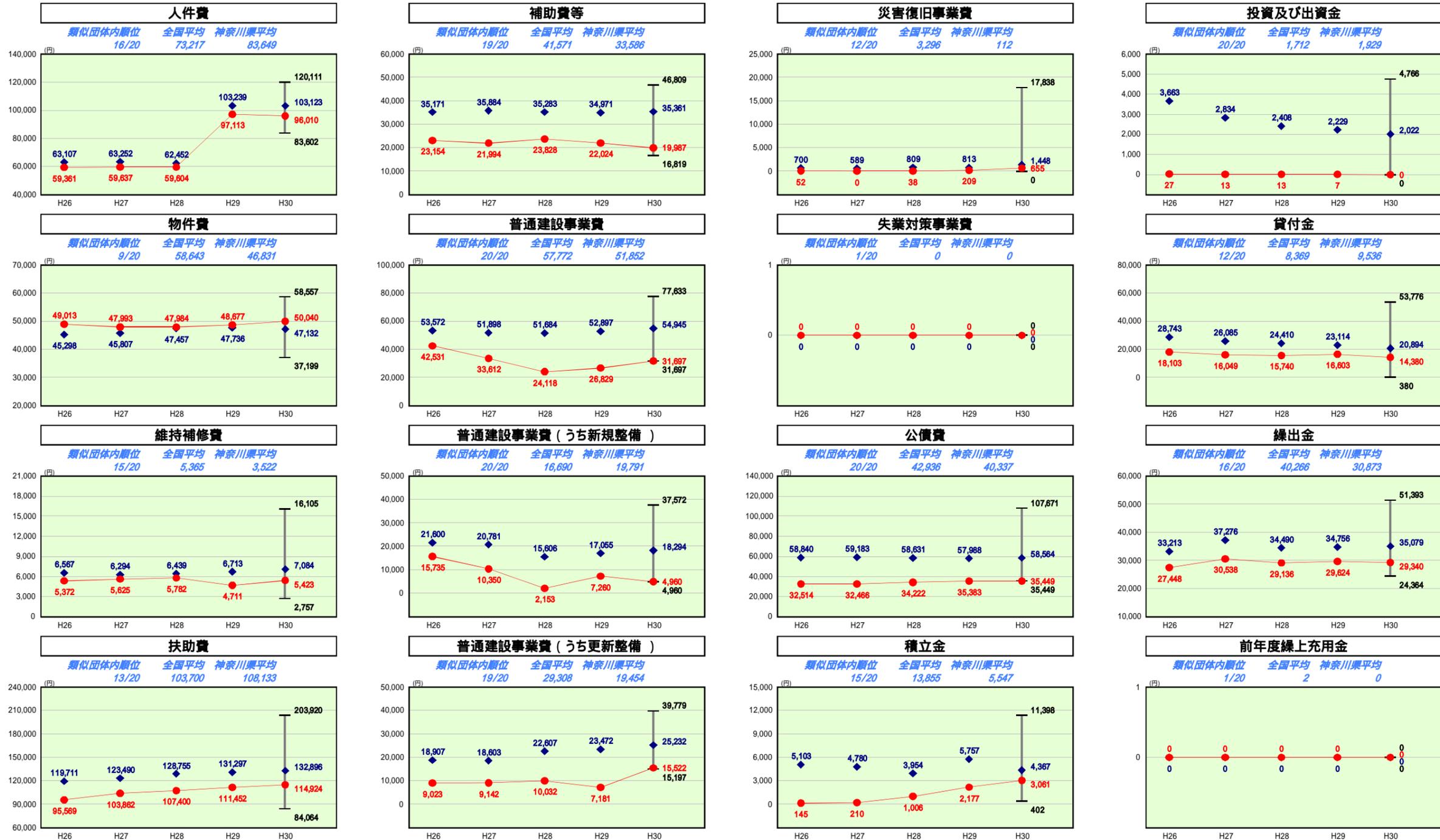
人口	718,367 人(H31.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	703,572 人(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	328.91 km ²	実質公債費比率	2.7 %
歳入総額	297,261,601 千円	将来負担比率	33.3 %
歳出総額	288,040,103 千円	市町村類型	H26 政令市 H27 政令市 H28 政令市
実質収支	8,163,779 千円	(年度毎)	H29 政令市 H30 政令市
標準財政規模	170,358,582 千円		
地方債現在高	269,916,692 千円		



市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性別別歳出の分析欄

歳出決算総額は、住民一人当たり400,965円となっている。人件費は住民一人当たり96,010円で、前年度と比べると1.1%減となっている。平成29年度に県費負担教職員の給与負担等の権限移譲等により総額としては増加しているが、近年、類似団体平均を下回り、低い水準を維持している。物件費は住民一人当たり50,040円で、前年度と比べると2.8%増となっており、類似団体と比較して、一人当たりコストが高い状況が続いている。これは、物件費に占める委託料や賃金の割合が高く、最低賃金が高い傾向にあるため、最低賃金が委託事業者や非常勤職員の賃金に反映されることによるものである。普通建設事業費は住民一人当たり31,697円で、前年度と比べると18.1%増となっており、2年連続で上昇している。これは、道路・橋りょうの長寿命化事業や清掃施設の設備改良事業が増加したこと等が主な要因である。近年、類似団体平均を下回る低い水準で推移しているが、持続可能な都市経営を行うために、引き続き、老朽化する公共施設の長寿命化事業や都市基盤整備等に係る経費の確保に努める。扶助費は住民一人当たり114,924円で、前年度と比べると3.1%増となっている。これは、保育所等への施設型給付費や障害児者介護給付費等が増加したこと等が主な要因である。扶助費などの義務的経費の増大は、柔軟な財政運営に影響を及ぼすため、引き続き、市単独事業の扶助費等の見直しなどに努める。全体的に、各費目の住民一人当たりの金額は類似団体平均を下回るものが多い。こうした中で、類似団体平均を上回る物件費、扶助費については、事務事業の見直し等の取組を進め、経費縮減に努める。

(6) 市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

平成30年度

神奈川県相模原市

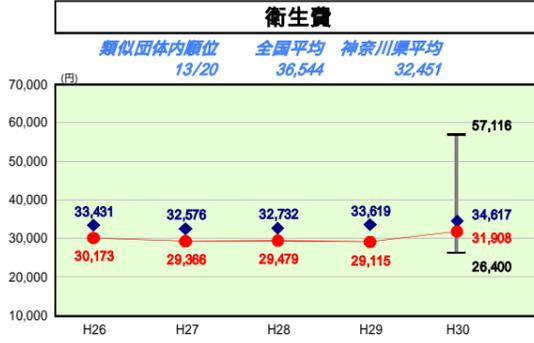
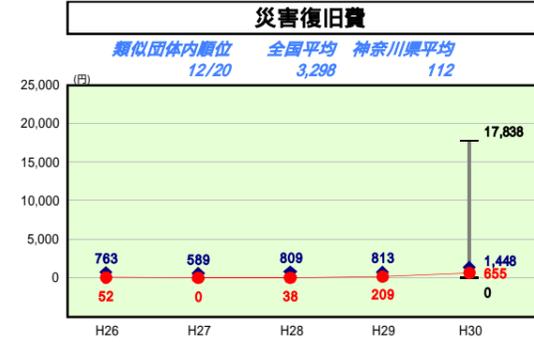
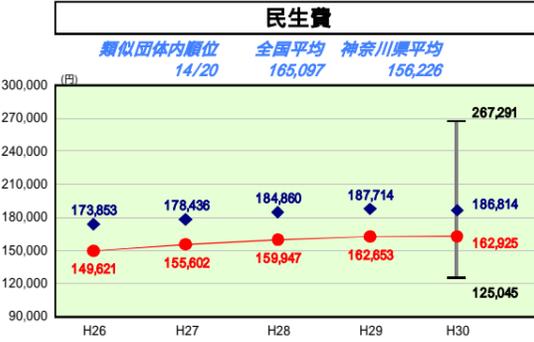
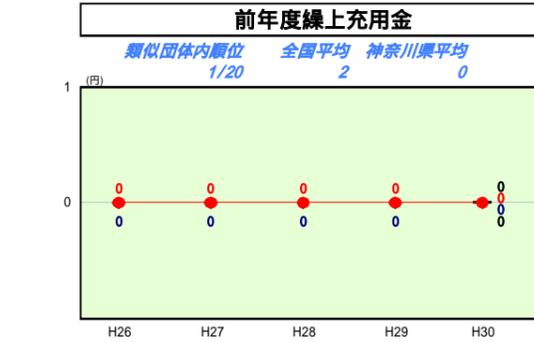
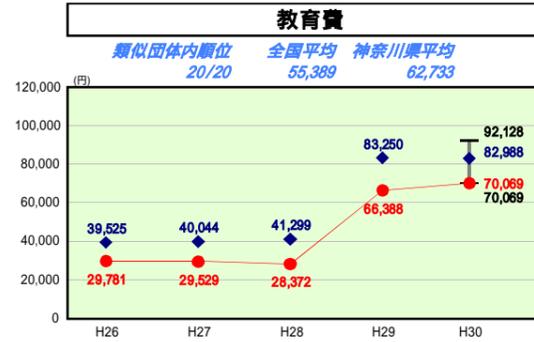
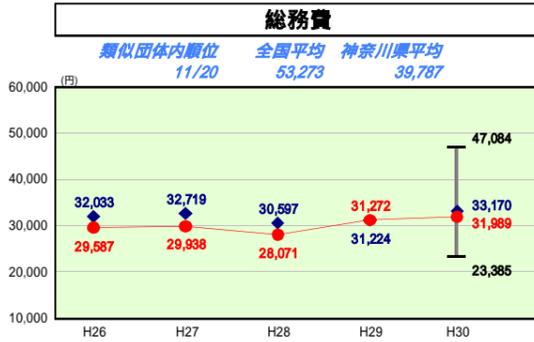
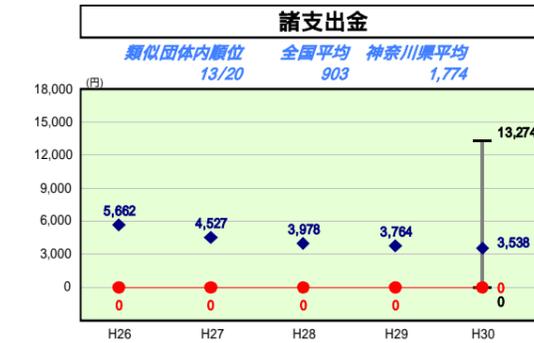
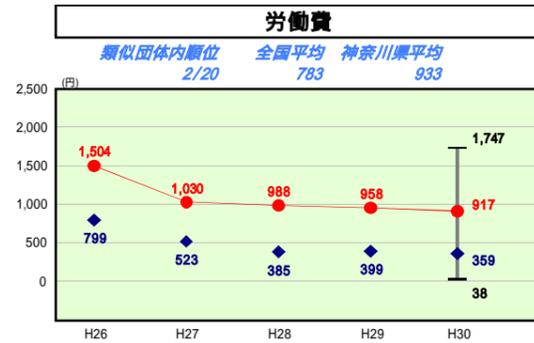
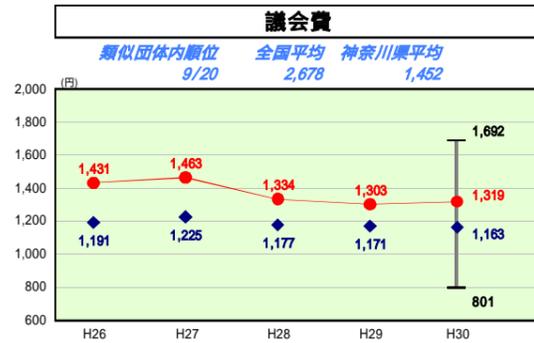
人口	718,367 人(H31.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	703,572 人(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	328.91 km ²	実質公債費比率	2.7 %
歳入総額	297,261,601 千円	将来負担比率	33.3 %
歳出総額	288,040,103 千円	市町村類型	H26 政令市 H27 政令市 H28 政令市
実質収支	8,163,779 千円	(年度毎)	H29 政令市 H30 政令市
標準財政規模	170,358,582 千円		
地方債現在高	269,916,692 千円		



市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析欄

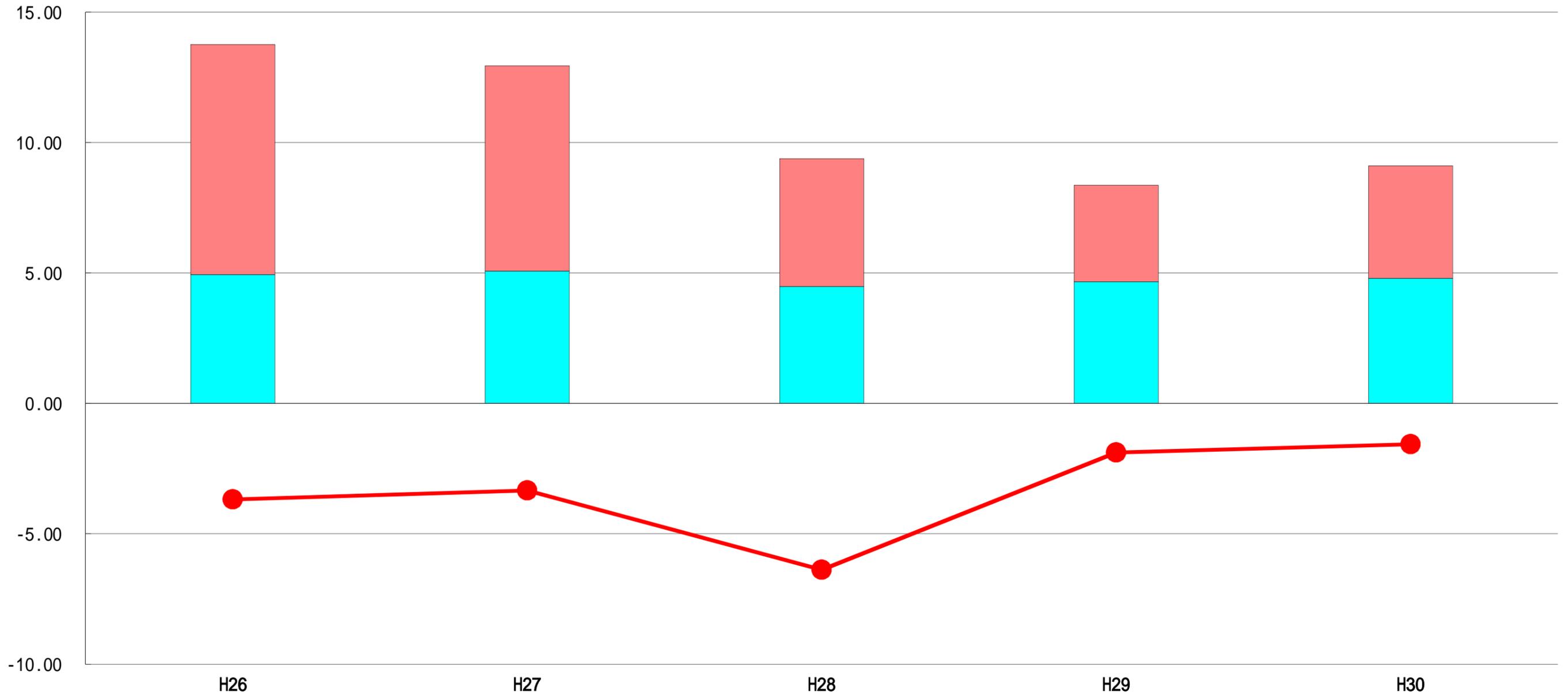
民生費は住民一人当たり162,925円となっており、前年度と比べると0.2%増となっている。類似団体平均を下回っているが、上昇傾向が続いている。決算額全体でも、近年上昇が続いているが、これは保育所等への施設型給付費や障害児者介護給付費の増加が主な要因である。衛生費は、住民一人当たり31,908円となっており、前年度と比べると9.6%増となっている。決算額全体でも、平成30年度において大きく上昇に転じており、これは、清掃施設の改良工事の増加等が主な要因である。土木費は住民一人当たり36,999円となっており、前年度と比べると2.4%増となっているが、類似団体内で最も低い水準である。決算額全体でも、平成26年度から28年度まで、前年度と比べると6%以上の減少が続き、29年度は微減となった。近年、圏央道インターチェンジ接続道路に係る事業や市営住宅建設事業などの大規模な事業が完了したことにより減少傾向が続いていたが、平成30年度において増加に転じた。これは、道路改良事業や道路・橋りょうの長寿命化事業の増加等が主な要因である。教育費は、住民一人当たり70,069円となっており、前年度と同様に最も低い水準である。これは、類似団体では本市のみ市立高等学校を設置していないことが要因の一つと考えられる。決算額全体でも、平成29年度に県費負担教職員の給与負担等の権限移譲の影響により大きく増加しており、30年度についても前年度より増加している。これは、小・中学校の校舎改造事業や空調設備整備事業の増加等が主な要因である。公債費は住民一人当たり35,513円で、前年度に引き続き、類似団体内で最も低い水準である。これは、第2次都市経営指針・実行計画に基づく市債の発行抑制の取組や、土木費が低水準で推移してきたことにより市債発行が抑えられてきたことなどが主な要因である。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析 (市町村)

平成30年度

神奈川県相模原市

標準財政規模比 (%)



標準財政規模比 (%)

区分	年度	H26	H27	H28	H29	H30
財政調整基金残高		8.82	7.86	4.90	3.70	4.31
実質収支額		4.93	5.07	4.47	4.66	4.79
実質単年度収支		3.69	3.34	6.38	1.89	1.57

分析欄

財政調整基金残高について、過去5年間（平成26年度～30年度）においては、平成26年度の122.1億円から29年度まで減少が続いたが、30年度は前年度と比べると約11億円増加した。平成26年度以降、積立額が40億円程度と一定の規模で推移しているが、福祉や子育て支援の充実に伴う扶助費の増加などの歳出増に対応するため、取崩額が積立額を上回る状況が続いていた。

こうしたことから、標準財政規模比は前年度と比べると低下傾向が続いていたが、平成30年度においては、積立額が取崩額を上回り、残高も増加していることから、標準財政規模比についても、前年度と比べると0.61ポイント上昇の4.31%となっている。

実質収支額について、形式収支が前年度と比べると2.3%増となっており、繰越財源は9.7%減となったことから、標準財政規模比については、前年度と比べると0.13ポイント上昇の4.79%となっている。

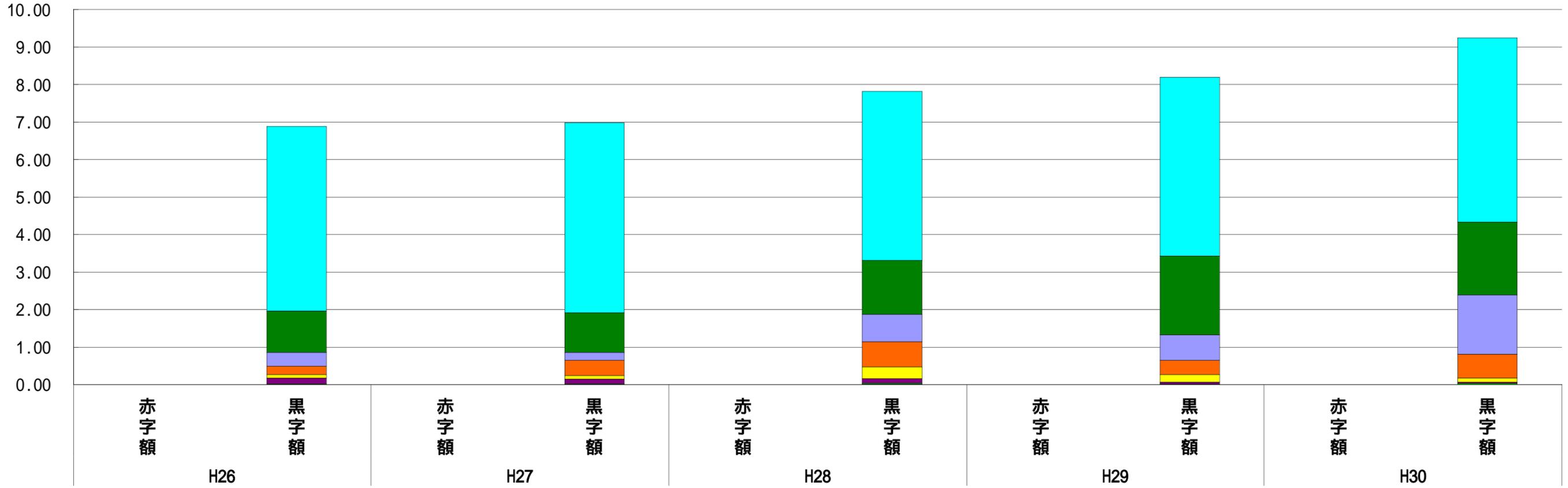
実質単年度収支について、26.7億円の赤字となったが、財政調整基金の取崩額が減少したことなどにより、標準財政規模比については、前年度と比べると0.32ポイント上昇の1.57%となっている。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析(市町村)

平成30年度

神奈川県相模原市

標準財政規模比(%)



標準財政規模比(%)

会計	年度	H26	H27	H28	H29	H30
母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
一般会計		4.92	5.06	4.51	4.76	4.91
国民健康保険事業特別会計(事業勘定)		1.11	1.06	1.44	2.10	1.94
下水道事業会計		0.37	0.21	0.72	0.68	1.58
介護保険事業特別会計		0.22	0.41	0.68	0.38	0.63
後期高齢者医療事業特別会計		0.09	0.09	0.31	0.20	0.11
自動車駐車場事業特別会計		0.16	0.13	0.12	0.06	0.04
簡易水道事業特別会計		0.02	0.02	0.03	0.01	0.03
その他会計(赤字)		-	-	-	-	-
その他会計(黒字)		0.00	0.00	0.01	0.00	0.00

分析欄

対象となる全ての会計において、赤字額及び資金不足額は生じていないことから、連結実質赤字比率は算定されていない。前年度と比べると標準財政規模に対する黒字額の割合については、1.05ポイント上昇している。これは、一般会計において実質収支額が増加したこと等によるものである。

今後についても、一般会計から他会計への繰出金や受益者負担の適正化を図ることなどにより、持続可能な財政運営に努める。

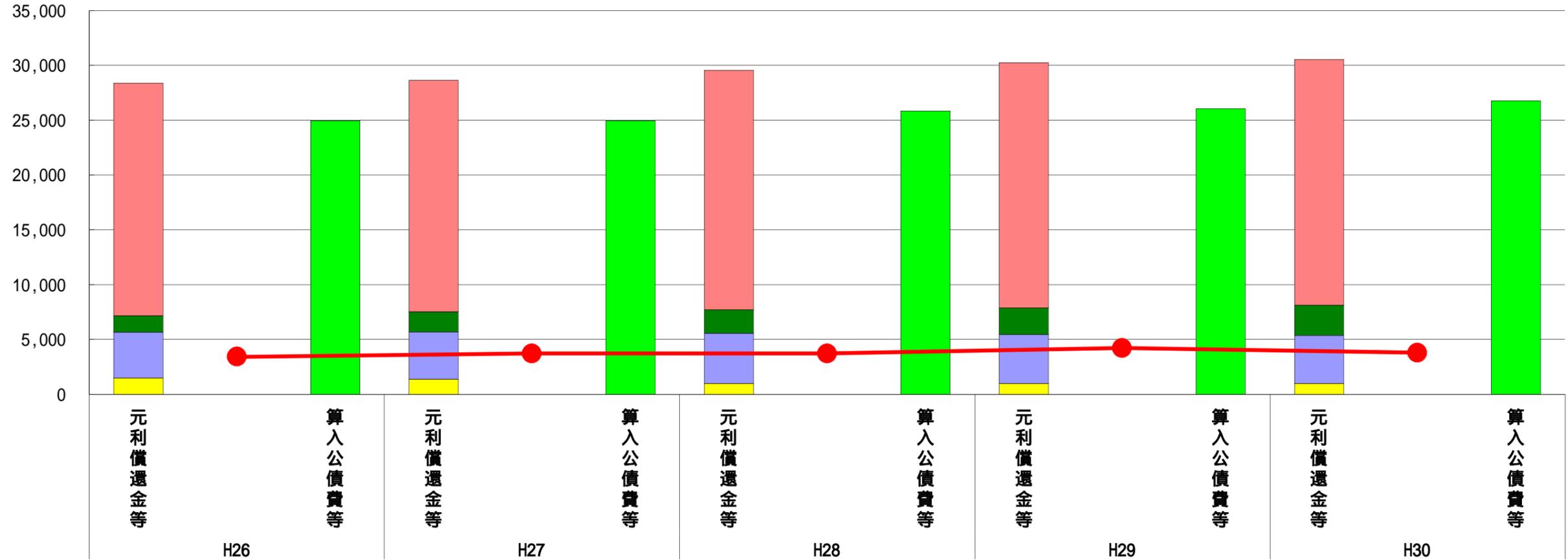
平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率(分子)の構造(市町村)

平成30年度

神奈川県相模原市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H26	H27	H28	H29	H30
元利償還金等(A)	元利償還金		21,210	21,100	21,827	22,371	22,381
	減債基金積立不足算定額 2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		1,500	1,833	2,160	2,460	2,760
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		4,178	4,329	4,571	4,451	4,405
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		1,472	1,366	979	977	974
一時借入金の利子		-	-	-	-	-	
算入公債費等(B)	算入公債費等		24,960	24,935	25,834	26,060	26,735
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		3,400	3,693	3,703	4,199	3,785

分析欄

元利償還金等については、臨時財政対策債などの発行に伴う元利償還金の増加や、全国型市場公募債の発行による満期一括償還地方債に係る年度割相当額の増加により、前年度と比べると増加している。

また、算入公債費等については、基準財政需要額に算入される元利償還金が増加した。

1 平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

		年度	H25末	H26末	H27末	H28末	H29末
2 減債基金積立状況等	減債基金残高(注)		2,984	4,442	6,000	8,210	10,520
	減債基金積立相当額		1,333	2,333	3,667	5,333	7,327

分析欄

満期一括償還方式の地方債については、毎年度発行額の1/30(住民参加型は1/10)を積み立てている。なお、積立不足額は生じていない。

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

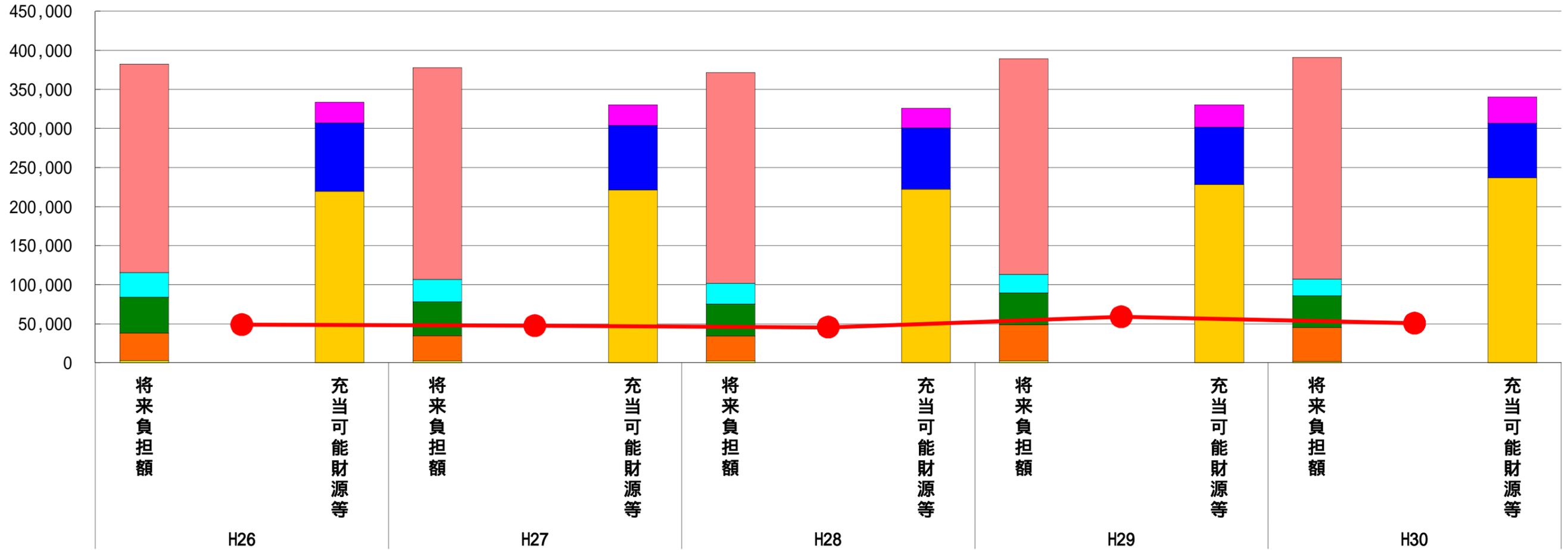
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率(分子)の構造(市町村)

平成30年度

神奈川県相模原市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H26	H27	H28	H29	H30
将来負担額(A)	一般会計等に係る地方債の現在高		266,630	270,808	269,193	275,797	283,802
	債務負担行為に基づく支出予定額		31,542	28,798	26,353	23,816	21,442
	公営企業債等繰入見込額		45,796	43,155	41,289	40,798	40,312
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		35,157	32,428	31,721	46,361	43,419
	設立法人等の負債額等負担見込額		3,027	2,603	2,612	2,462	2,133
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等(B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能基金		26,076	26,426	25,043	28,669	33,638
	充当可能特定歳入		87,667	82,545	78,352	73,694	69,938
	基準財政需要額算入見込額		219,547	221,372	222,324	227,998	236,793
(A) - (B)	将来負担比率の分子		48,863	47,450	45,450	58,873	50,740

分析欄

将来負担額については、一般会計における地方債の現在高が増加したことにより、前年度と比べると増加となっている。

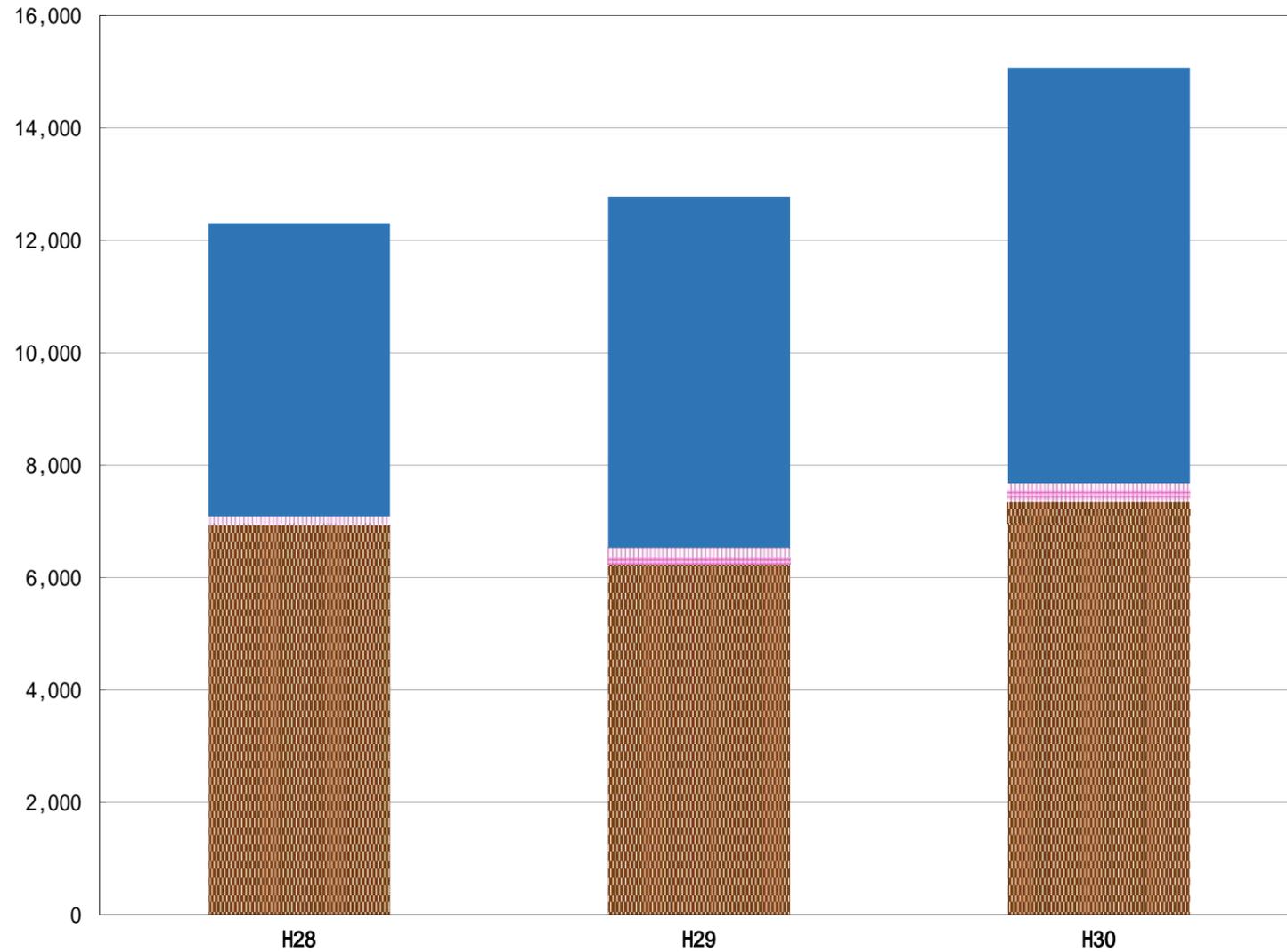
また、充当可能財源等については、基金残高が増加したことや、地方債現在高のうち地方交付税措置のある事業債に係る残高の比率が増加したことにより、前年度と比べると増加した。

今後についても、市債の発行に当たっては、地方交付税措置のある有利な起債を活用するなど、持続可能な財政運営に努める。

平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）

（百万円）



（百万円）

区分	年度	H28	H29	H30
財政調整基金		6,933	6,238	7,342
減債基金		156	293	334
其他特定目的基金		5,214	6,241	7,393
公共施設保全等基金		4	104	638
市街地整備基金		23	465	542
産業集積促進基金		285	480	762
子ども・若者未来基金		-	229	494
学校施設整備基金		-	211	411
基金残高合計		12,303	12,772	15,069

平成30年度

神奈川県相模原市

基金全体

（増減理由）

平成30年度の財政調整基金の残高は、市税等の歳入が見込みを上回り取崩額を減額したため、前年度と比べると約11億円増加した。その他特定目的基金においては、老朽化する公共施設の長寿命化事業等を着実に推進する必要があることから、その財源を確保するため、「公共施設保全等基金」や「学校施設整備基金」への積立を行ったことなどから、残高は前年度と比べて約12億円増加した。

平成28年度から30年度にかけて基金全体で約28億円増加しているが、これは上記の理由から、平成30年度基金残高が前年度と比べて約24億円増加していることが主な要因である。

（今後の方針）

基金については、それぞれの設置目的に従い積立・取崩し等を行っているが、現在、それぞれの積立の考え方などについても整理・研究を進めている。

また、老朽化する公共施設の長寿命化事業等を着実に推進する必要があることから、その財源を確保するため、「公共施設保全等基金」や「学校施設整備基金」の残高が増加する見込みで、現在、「公共施設の保全・利活用基本指針」に基づき、施設等の長寿命化計画の策定に向けた取組を進めているところであるが、積立の考え方などについても整理・研究を進めているところである。

財政調整基金

（増減理由）

平成29年度においては、前年度決算剰余金等約40億円の積立を行ったのに対し、47億円の取崩しを行ったことから、年度末残高は前年度末と比べると約7億円の減少の約62億円となった。

また、平成30年度においては、前年度決算剰余金等約41億円の積立に対し、30億円の取崩しを行ったことから、年度末残高は前年度末と比べると約11億円増加の約73億円となった。

（今後の方針）

令和元年度は、前年度決算剰余金等約42億円を積み立てることに対し、約48億円の取崩しを見込んでいることから、年度末残高は前年度末に比べて減少するものと見込んでいる。

財政調整基金については、中長期的に安定した財政運営を行う観点から、一定程度の残高は確保していく必要があるものと考えているが、現時点で具体的な積立目標額等はないことから、積立の考え方などについても整理・研究を進めている。

減債基金

（増減理由）

市債の償還に必要な財源を確保し、将来にわたる財政の健全な運営に資するため、基金運用益等の積立により、前年度と比べると0.4億円の増加となっている。

（今後の方針）

運用益等による積立により、令和元年度末残高も増加するものと見込んでいる。

なお、この残高には含まれていない満期一括償還に係る積立は、全国型市場公募債（平成22年度から発行）分については1/30、住民参加型市場公募債（平成27年度まで発行）分については1/10ずつ、発行の翌年度より積立を行っており、満期一括償還に備えた減債基金の積立不足は生じていない。

其他特定目的基金

（基金の用途）

基金残高の多い主な基金の用途は、次のとおりである。

都市交通施設整備基金：都市交通施設を整備する事業の財源とするために設置された基金

社会福祉基金：社会福祉の増進を図る事業の財源とするために設置された基金

産業集積促進基金：産業集積の促進を図る事業の財源とするために設置された基金

（増減理由）

増減額が大きかった主な基金の増減額と理由は、次のとおりである。

【公共施設保全等基金】（平成30年度末残高：638百万円 対平成29年度末残高増減額：+534百万円）

公共施設の長寿命化事業等を今後も着実に推進する必要があることから、決算剰余金見込額の一部を原資に積立を行ったため残高が増加した。

【産業集積促進基金】（平成30年度末残高：762百万円 対平成29年度末残高増減額：+282百万円）

企業に支払う奨励金の財源とするため、平成30年度補正予算において積立を行ったとともに、令和元年度当初予算で5億円の取崩しを見込むこととしたため、30年度末残高としては一時的に増加した。

【学校施設整備基金】（平成30年度末残高：411百万円 対平成29年度末残高増減額：+200百万円）

学校施設の長寿命化事業等を今後も着実に推進する必要があることから、決算剰余金見込額の一部を原資に積立を行ったため残高が増加した。

（今後の方針）

老朽化する公共施設の長寿命化事業等を着実に推進する必要があることから、その財源を確保するため、「公共施設保全等基金」や「学校施設整備基金」の残高が増加する見込みである。現在、「公共施設の保全・利活用基本指針」に基づき、施設等の長寿命化計画の策定を進めているところであるが、積立の考え方などについても整理・研究を進めているところである。